

# Ship～その可能性～

## 日本発、船から広がる未来

# 希望の船新聞

発行

神戸市立

葺合高校

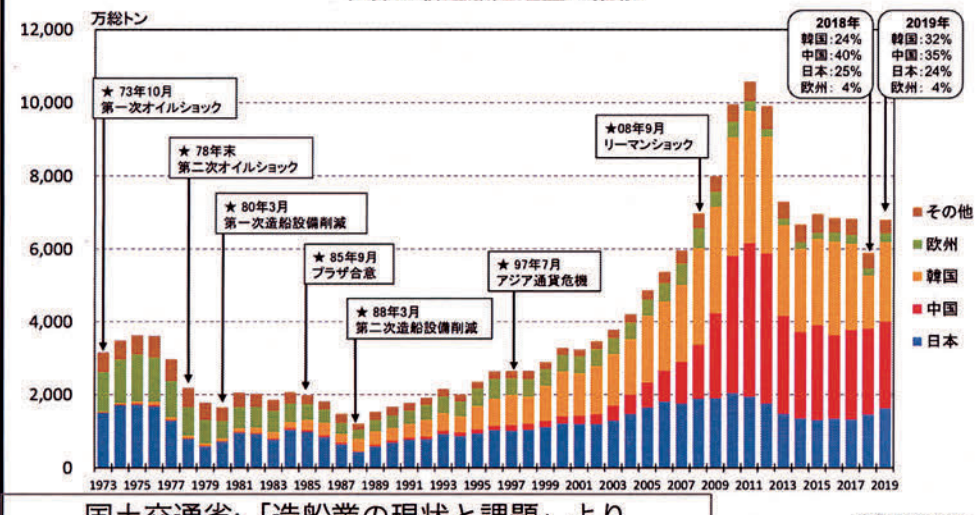
国際科

2年1組

黒崎愛瑠菜



世界の造船建造量の推移



国土交通省:「造船業の現状と課題」より

かつて日本は世界の造船業のシェア一位だったが、最近では中国・韓国に抜かされてしまっている。現在は、日本が誇ることもできる輸出産業は激減、経済的にはかなり厳しい状態だ。

しかし、日本は四方を海で囲まれた海洋国であり、長年、造船で培ってきた技術もある。これまで蓄積してきた技術と経験を活用し、さらに斬新なアイデアを取り入れ、世界に新しい船の用途モデルを示すことができるだろうか。

「船」それは希望。太古の昔から作られていた「船」、漁、新たな土地の探索、物品の運搬、戦いの船、旅客を乗せる船、近代でもその用途はあまり変わらず、人類は船と共に発展してきた。



「兵庫県民の医療と福祉を守る会」チラシより

避難支援船として  
日本は自然災害の多い国だ。災害等の影響で自宅に住めなくなった人々へ、生活の質を出来るだけ落とさない、一時的な暮らしの提供に船の利用は最適だ。

さらに医療の必要な人へは出来るだけ早く医療へのアクセスも必要だ。

二〇二二年、国は「災害時多目的船(病院船)」に関する調査・検討報告書」でその可能性を検討していた。

また二〇一五年には「兵庫県の医療と福祉を守る会」によって、福祉避難所船の構想が実現を訴えるフォーラムが開催された。

### 自立支援船として



「地図データ」国土地理院作成より

今後、日本の少子化はさらに進み、人口は減少していき、その一方で社会の中でAIやロボット活用も増える。それによって、様々な面で職種の求人が必要になるが、職につけないう人も増加するだろう。

また地球温暖化による海面上昇リスクも忘れてはならない。

日本は山が多く平地の少ない国で、住める場所は限られている(右地図白部分が可住地)。

人口は減少し、仕事のある場所は減る。地方の産業の従事者は減るかもしれない。

仕事に必要で、住む場所がない。抱えたい支援者に社会問題を抱えたい人が増える。

生きるのが困難な時、心と体を休めることができない。生活の場が狭くなる。生活の場が狭くなる。生活の場が狭くなる。

### 人道支援の船

として

世界には戦争や侵略、そして内紛など、理不尽な理由で住むところを追われた人々がいる。

また世界中で自然災害により家を失う人々もいる。様々な事情で支援の手が届かない人々も多くいるだろう。

日本は災害大国だ。これまで多くの人が被災して避難を余儀なくされてきた。その間に、政府や民間企業、公的機関や民間企業など、多くの人が日本に関わってきた歴史がある。

そして世界からは温かい支援があった。

今まで培ってきた経験を活かして、支援の仕組みを整え、自給自足の生活を支える。多くの人々を支援できる。



国土交通省「旅客船バリアフリーガイドライン」より

新しい形の国際貢献。日本は「国際社会」に貢献できる。

新しい形の国際貢献。日本は「国際社会」に貢献できる。

# 「船」の未来

地球の約七割は海だ。そして陸地にも川がある。生活をおこすために必要不可欠な物だ。おそろしく最初は流木等を利用していただけだろう。そしてそれらを組みイカダの形になった。ガレージ船、帆船、蒸気船、そして現代の船へと、各々の時代の最新の技術を用い、船は進化していった。現代も進化し続けている船、未来の船はどのように変化するのだろうか。

## 持続可能な船

二〇一五年に国連総会が採択した「持続可能な開発目標」、略称「SDGs」は現在広く知られ、様々な国や地域や企業がその達成を目指している。日本の海運・造船会社、そして港湾関係の事業者など、積極的に取り組んでいる。

「宇宙船地球号」とも言われるこの地球を、未来の世代に気持ちよく受け継いでもらう為に私たちの世代も動き出している。



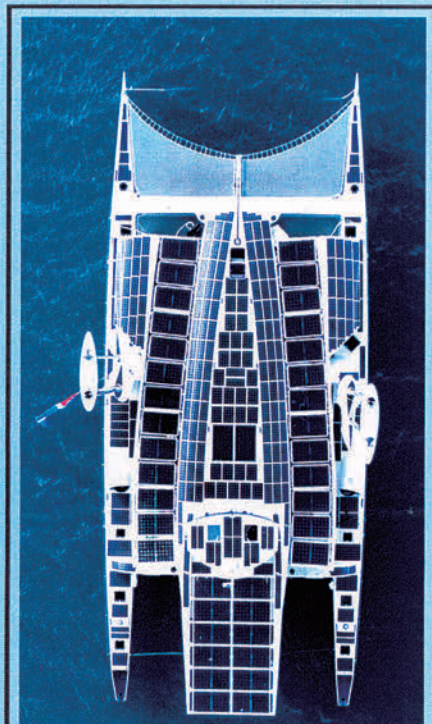
日本船主協会「海運業界の挑戦」より

## 自給自足できる船

大きな豪華客船は動く街、動く都市と比喻されることがある。さらに規模の大きなものがある。それならさらに規模を拡大し、船単体で様々なものを調達できるように目指してはどうか。

船を動かす燃料も最近では変化してきており、従来の化石燃料だけでなく環境負荷の低いLNG(液化天然ガス)燃料船の導入も増えてきている。また水素燃料船も期待されている。

自然エネルギーを燃料とすることも可能だろう。



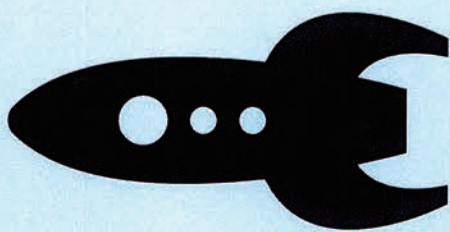
「Energy Observer」トヨタ ホームページ 2020年ニュースレターより

「Energy Observer」は化石燃料を使わず、太陽光や風力などの再生可能エネルギーと、海水から生成した水素で航行している。

また日本の近海にかなり眠っていると言われているメタンハイドレートも採取が可能になり、燃料補給として実用化することができれば、港に燃やせることなく船の燃料としてダイレクトに使える可能性があります。大規模な船なら作物を育てたり、畜産も可能だろう。実際にアマゾン川の定期航路では、食肉用に生きた鳥を飼いなながら航行しているのを見て、レビで見たことがある。自給自足できる船は、実現可能だ。

## 宇宙への可能性

英語で宇宙船は「Starship」というが、造船の技術は宇宙船の設計にも応用できる。生きていけると予想もなかった事がある。たまたま「SDGs」で地球の寿命を延ばすことができた。宇宙からの脅威は常にあり、消滅するかもしれない。



日本がこの技術を開発し、高め続け、人類が行きつけなかった時に良い提案も提供できるかもしれない。

編集後記  
私は神戸生まれの神戸育ちです。天然の良港と言われる神戸港。平安時代に平清盛が大輪田泊を大修築しました。江戸時代には勝海舟の発案により幕府が開いた海軍操練所が、そして近代からは造船も盛んになりました。また神戸は戦後初めてとも言っているほどの大震災に見舞われ、大人数の避難者向けの現代的な避難プロトコルが確立していない時期に、震災に見舞われた人々には、筆舌に絶する不便に。長期間耐え忍びました。そして日本に目を向けると、日本は海洋国であり自然災害の多い国です。今後も避難場所が必要になることもあるでしょう。ある程度自給自足が可能な船を造船し、それを活用できる人材を育て、非常時には住む場所を失った避難者の心と体を休める場所を提供できるモデルを構築できるのは、日本にしかできないことかもしれません。それはまた国際的な人道支援に繋げることも可能です。日本の平和貢献が評価されるでしょう。そしてその経験の積み重ねで、船内での自給自足が長期間の生活に耐え得る様になった時、その技術は宇宙船への応用へも期待できます。

船に秘めた素晴らしいポテンシャルを周知し、国を挙げて応援し、今までの常識にとらわれない新しい乗り物を日本が作り、人類の平和と発展に貢献できることを願ってやみません。



川西英の版画(我が家所蔵) 海に浮かぶ船が飛んでいるように見える作品